

# 森番人

文部科学省 平成22年度 特別教育研究経費「再チャレンジ支援プログラム」

## 林業技術者(森番人) 養成プログラム



社会人  
入学

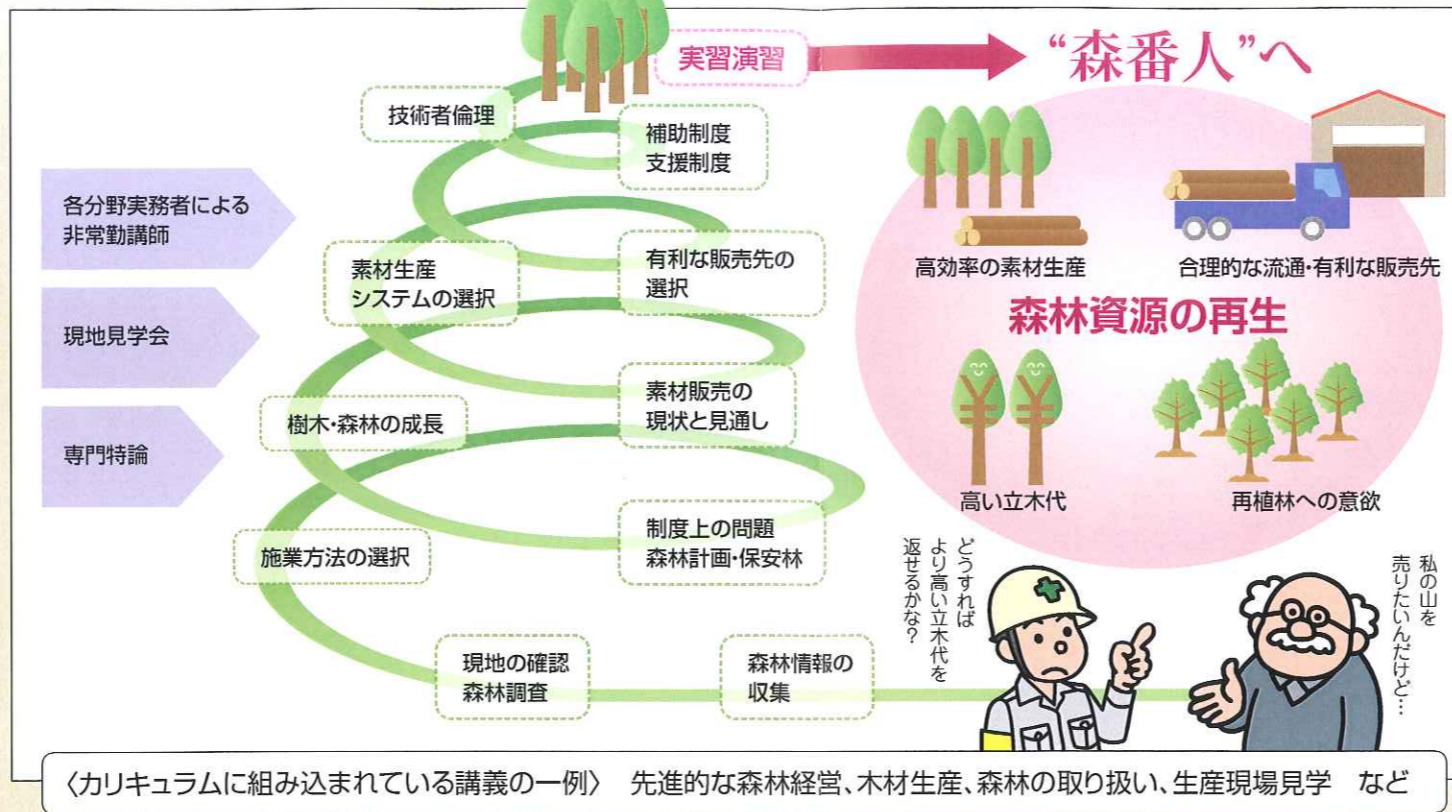
林業生産現場での課題解決を目指す  
「社会人」のための大学院教育プログラム



鹿児島大学大学院 農学研究科修士課程 生物環境学専攻  
森林管理学・地域資源環境学講座

# 林業技術者 “森番人” 養成プログラムとは

## “森番人”養成プログラムの概要



### 演習林での間伐見積もり実習



所有者の間伐実施の見積もり、間伐作業のための道路の設計について、森林組合等の実例の説明を受けて、鹿児島大学演習林の中で現地実習をします。

### 間伐現場での高性能林業機械の利用研修



高性能林業機械を実際に運用している事業者の現場で運用や課題について説明を受け、利用上の問題点についての意見交換や機械の組み合わせ方など、コスト削減のための生産システムの知識と現場での適応について、実際の勉強をします。

### 林業経営のためのシステム収穫表のパソコン実習



個別林分の収穫や収入予測を行うシステム収穫表の説明とパソコンを利用した実習です。間伐等の作業実施による収穫予測の方法を学びます。

## 修了生・在学院生の声

現場研修や専門家の講義で幅広い視点を養えます



伊地知 美智子さん  
(平成21年修了)  
(株)島津興業林業部 勤務

勤務先では社有林の管理だけでなく民有林の管理も行っており、森林の経営者や所有者の方々に管理の計画や作業について説明する機会が度々あります。木材を販売するという経済的知識だけでなく、森林生態学や間伐助成金制度などについての総合的な知識が必要だと痛感していました。また、林学を基礎から学んでみたかったということもあり、入学を決意しました。

院生の方から「こういう勉強をしたい」と要望を出せば、先生方が全国から講師を探してくださったり、親身になって対応してください。動いているとどうしても視点が狭くなりがちですが、林業関係の工場や山の作業現場に出かけての研修や、経営工学など林業以外の専門家の講義があったのも良かったと思っています。

第一人者の講義を少人数のゼミ形式で受講できます



芦原 誠一さん  
(平成20年入学、大学院2年生)  
鹿児島大学農学部附属演習林 勤務

大学所有の演習林で、学生の実習や教員の研究の補助、山林の管理や一般向けの森林環境教育のサポートなどを行っています。広大な山林をしっかりと管理し、民間と同じレベルのシビアな経営意識をもって森林管理をするために勉強し直したいと考えたのが入学の理由です。平日の仕事と土日の授業を両立できるか不安もありましたが、今は論文作成に向けて頑張っています。講義には鹿大の先生方のほか、全国から各分野の第一人者の方々が講師として来られ、それを少人数のゼミ形式で受講できます。修了後は、演習林にとって必要なテーマを設定し、日々の仕事と並行して追いかけていけたら自分の成長にもなり、組織の足腰強化にもなると考えています。この2年間の頑張り在今后の自分の仕事に生きてくるよう、研究を続けていきます。

林業の「川中」「川下」の世界を知ることができました



犬童 拓郎さん  
(平成20年入学、大学院2年生)  
伊佐森林組合 勤務

私の主な仕事は、木材の販売や、手入れの必要な山林を調査して間伐の提案書を作り、山林の手入れを推進することです。近年は所有者の高齢化や木材価格の下落などで、間伐の提案すら難しい状況が続いていました。なぜ山の手入れが必要なのか理論的に説明できるようになりたい、自分の仕事を第三者的な目で見たいと考えていたときに、このプログラムを知りました。今まで、木材を伐採し販売するという「川上」の世界しか知りませんでしたが、木材の流過程や利用のされ方といった「川中」「川下」の世界も知ることができたのは良い経験でした。難しく一度では理解できない内容もありますが、それもやりがいと感じます。また、同じ林業関係でも異なる職場、違う立場の人たちと机を並べて勉強できたことも大きな財産です。

林業技術者(森番人)が求められる社会的背景

森林資源を  
木材生産に結びつける  
人材を育成します

今日、国内の森林資源(人工林資源)は充実しているにも関わらず、森林所有者の高齢化や木材価格の大幅な下落などにより、森林所有者が林業生産活動を放棄する状況にあります。資源を有効活用して地域産業を育成するとともに、地球温暖化の要因となるCO<sub>2</sub>の吸収源である森林資源の利用・整備を進めていくことも求められています。森林所有者に代わり、森林資源を木材生産まで結びつける人材(通称“森番人”)の養成が、今、求められているのです。

林業技術者(森番人)養成プログラムの特徴

現場で役立つ  
実践的なカリキュラムを  
用意しています

本プログラムでは、一定の専門知識をもちながらも、それを十分に生かしていない林業関係者の方々の能力を高め、現在、社会的に求められている森林管理の担い手“森番人”を養成します。そのため、林業生産現場の実態を理解した上で、森林所有者との信頼関係を築き、森林の取り扱いについて所有者に具体的に説明・提案する能力、立木の買い手(素材生産業者等)と取引する能力を身に付けるための実践的なカリキュラムを用意しています。

社会人の受講を支援する  
工夫・制度が充実

仕事を続けながらの  
大学院修了が可能です

文部科学省「再チャレンジ支援プログラム」に指定された本プログラムは、社会人入学を前提としています。そのため、社会人の方々の仕事が継続しながら学べるよう、さまざまな工夫・支援を行っています。

- ◎原則、土・日開講
- ◎最大4年までの受講期間延長制度
- ◎授業料免除制度
- ◎厚生労働省教育訓練給付制度(申請中)

\*そのほか、個々人の事情に合わせて柔軟な指導体制をとることもできます。ご相談ください。

担当教員  
から

現場の課題を解決する  
“森番人”を養成します

鹿児島大学農学部生物環境学科  
准教授 枚田邦宏



1950年～70年代前半までの森林所有者は、植林をして成長した木を木材として販売し、儲けを出していました。しかし、日本の住宅事情の変化や海外からの安価な木材の流入などにより、今や木材価格はピーク時の3分の1にまで落ち込んでいます。また、森林所有者の高齢化などが要因となり、森林の管理や売買が難しくなってきたという現状もあります。

鹿児島大学では、鹿児島の林業関係者の方々と接する中

で、森林所有者に代わり、森林資源の取引や管理、取り扱いの能力などを備え、森林所有者とその買い手(素材生産業者)との間に立って木材生産を推進できる人材“森番人”の必要性を痛感してきました。そして平成19年度から文部科学省の再チャレンジ支援プログラムを利用し、“森番人”の養成を行っています。

本プログラムは、林業関係の社会人の方々が対象です。現場の課題を解決するプログラムのため、林業生産現場の実態に即した講義科目を多数用意し、実践において役立つ内容となっています。鹿大の教員だけでなく、それぞれの分野の第一人者ともいえる専門家が講師となり、少人数で講義が進められます。大卒同等以上の学力があれば、高校あるいは専門学校卒業の方が入学し、修了することも十分可能です。

本学の“森番人”養成プログラムを修了された方々が、大学院修了後も仕事を続けながら自己研鑽を積み、林業の活性化につながることを期待しています。

再チャレンジ支援プログラム(2年間)への応募について

対象者

社会人

2年以上(平成22年3月31日までの間)教育・研究機関、官公庁、企業等(自営業、農林業、青年海外協力隊およびNPOの実績も含む)の現業に従事している方、または従事した方で上記関連分野へ再チャレンジをしようとする方。

\*大学卒業以外の方には、大卒同等以上の学力があるかどうかの事前審査があります。

学費

入学金 282,000円

授業料 半期分 267,900円(年間 535,800円)

\*申請によって、授業料の全額あるいは半額を免除できる制度があります。

入学  
試験

出願書類による審査と口頭試問により選抜 入学検定料30,000円が必要です。

入学までのスケジュール

1. 出願資格の問い合わせ・照会(大卒以外の方)  
問い合わせは平成22年2月12日(金)まで。  
出願資格審査書類の提出は平成22年2月15日(月)～2月17日(水)
2. 出願期間 平成22年3月1日(月)～3月3日(水) 受付時間/9:00～16:00
3. 入試実施 平成22年3月16日(火)
4. 合格発表 平成22年3月21日(日) 10:00
5. 入学手続き 平成22年3月下旬
6. 入学後 平成22年4月中にオリエンテーションを実施。2年間の履修等について打合せを行います。

お問い合わせ先

■プログラムの内容について詳しくお知りになりたい方は……

鹿児島大学農学部生物環境学科 枚田邦宏(ひらた・くにひろ)  
TEL 099-285-8578  
E-mail khirata@agri.kagoshima-u.ac.jp

出願、事務手続き等に関することは……

鹿児島大学農学部教務係  
TEL 099-285-8531